

市の A
議員の Q &
総括・委員会質疑
身近な話題を Pick up!



子育て世帯への支援給付金

市独自の取り組みとして、18歳までの児童を養育する全世帯に、児童1人当たり1万円を支給する経費が提案されました。

Q 物価高騰の影響をどのようにみているのか。
A 生活必需品の節約は困難。市費で給付金を支給。

●市長／子育て世帯では、おむつや粉ミルクのほか、文具や衣料品など、子どもの成長に欠かせない必需品について節約が困難であり、物価高騰の影響を受けている。このような状況を捉え、給付金を支給することにした。



リフレッシュビレッジ管理運営費

リフレッシュビレッジ施設の指定管理者の交代に伴い、前指定管理者が所有している資産の買い取りに係る経費及び指定管理料の再算定に基づく所要額が提案されました。

Q 市が買い取る資産は何か。
A 前指定管理者所有の事務所やマイクログラスなど。

●議員／前指定管理者から買い取る資産は何か。また、資産に関して、経年劣化、減価償却等もあると思うが、その資産の買い取り額はどのように出したのか。



Q 過去に実施した給付金で申請漏れはないか。
A 期限後の申請漏れの相談はこれまで1件もない。

●ことも政策課／プッシュ型の支給以外の世帯には申請書を送付し、申請がない場合は再度案内をしている。また、広報紙やホームページ等でも周知している。

農業用施設等維持管理費補助金

土地改良区等が管理する農業水利施設（揚水ポンプ、ゲート等）の運転等に係る経費のうち、電気料金高騰分の一部を補助する経費が提案されました。

Q 対象者への補助はどのくらいになるか。
A ほぼ100%近い補助になる。

●農林水産整備課／電気料金の高騰分については、国で7割、残りを県市、地元でそれぞれ3分の1ずつ負担する予定であるが、市は3分の1以上の15%を限度に補助する考えであり、ほぼ100%に近い補助になる。



上越観光物産センター

休止している上越観光物産センターの民間による今後の利活用に向け、施設の用地測量及び用地調査に係る経費が提案されました。

Q 民間による、どのような利活用を考えているのか。
A プロポーザル方式で様々なアイデアを募集する予定。



上越観光物産センターは、平成3年に建設。施設の老朽化等により、令和5年4月1日から休止している。

●市長／立地条件の良さをいかして、民間活力により利活用を図ることが最適と判断し、民間事業者へ譲渡又は貸付を行う方針を固めた。様々なアイデアを募集するとともに、まちづくりの観点からも最適な選定をしたいと考えているため、プロポーザルの手法を予定している。隣接施設及び周辺の商業施設との関連も考慮し、市と進出事業者にとって、最も有効と思われる活用方法を模索していきたい。

粗飼料価格高騰緊急対策事業

飼料価格の高騰による畜産経営への影響を緩和するため、乳用牛又は肉用牛を飼養している市内の畜産農家を対象に、粗飼料の価格上昇分に係る費用を支援する経費が提案されました。



Q 畜産農家への支援単価をどのように設定したのか。
A 畜種別に1頭当たりの支援単価を設定。

●市長／支援内容の検討に当たり、上越地域畜産クラスター協議会へ聞き取りを行うとともに、えちご上越農業協同組合の酪農部会・肉用牛部会から、畜産農家への支援を求める陳情をいただいた。牧草や青刈り作物などの粗飼料について、価格上昇分に係る費用を対象に支援することとし、畜種別に1頭当たりの支援金単価を設定して、飼養頭数に応じた支援金を給付する。

Q 事業対象を粗飼料価格上昇分に係る費用とした理由は。
A 粗飼料には国による支援がないため。

●市長／配合飼料には国の価格安定制度が既に設けられている。一方で、粗飼料には同様の制度がなく、支援内容が十分でないため。

エネルギー価格高騰支援金

中小企業者、農業者等に対し、エネルギー価格高騰の影響による負担軽減を図るため、支援金を支給する経費が提案されました。

Q 市内事業者からどのような声を聴いているのか。
A 緩やかに回復傾向だが、依然厳しい状況である。

●産業政策課／関係団体との情報共有会議の中で、企業規模が小さくなるに従って、依然厳しい状況が続いているとの現状報告があった。売上げ規模に応じた制度設計を見直して、中小企業者、農業者等が支払った光熱水費、燃料費の一部を支援金として支給する。